

財政健全化計画の進捗状況について

厳しい財政状況の改善に向け、また、将来を見据えた健全な財政構築のため、平成27年度に「財政健全化計画」を策定し、年間6億7,300万円の一般財源確保のための取組みと目標額を設定しました。平成30年度決算に基づき、その取組み状況と実績を報告します。



平成30年度の進捗状況

歳入の確保	目標額	H30年度実績	目標額との差
市税収納率の向上および税外債権の回収強化	40,000千円	90,070千円	50,070千円
公共施設などの使用料見直し	2,000千円	4,770千円	2,770千円
債券運用による歳入確保	6,000千円	3,847千円	△2,153千円
未利用地の処分・貸付	10,000千円	△16,185千円	△26,185千円
合 計	58,000千円	82,502千円	24,502千円

- 平成30年度の市税の徴収率は95.9%と、平成27年度に比べ1.3%アップし、目標の0.2%アップを上回りました。債権回収対策の徴収額と合わせ、効果額は90,070千円となりました。
- 「使用料・手数料等に関する基本方針」に基づき、平成27年度にエコパーク「紀望の里」、文教施設、体育施設について新たな料金設定で条例改正を行い、平成30年度は約4,770千円の増収となりました。
- 平成27年度から債券運用に取り組み、平成30年度は売却益と利子を合わせて3,847千円の増収となりました。
- 平成29年度から未利用地の処分・貸付による10,000千円の財源確保を新たに設定しました。平成30年度は約12,178千円の収入がありましたが、平成27年度に比べると16,185千円の減収となりました。

人件費の抑制	目標額	H30年度実績	目標額との差
職員数および職員給与の削減	260,000千円	492,664千円	232,664千円
合 計	260,000千円	492,664千円	232,664千円

- 職員数および職員給与の削減などにより、平成27年度に比べ492,664千円の削減となりました。

普通建設事業費などの削減	目標額	H30年度実績	目標額との差
普通建設事業費の抑制	50,000千円	190,288千円	140,288千円
合 計	50,000千円	190,288千円	140,288千円

- 投資的経費は必要最小限に絞り込み、平成27年度に比べ190,288千円の削減となりました。

その他	目標額	H30年度実績	目標額との差
臨時・嘱託職員数の削減	70,000千円	120,216千円	50,216千円
事業の見直しや縮小による物件費の削減	170,000千円	44,829千円	△125,171千円
補助費や繰出金の見直し	65,000千円	109,377千円	44,377千円
合 計	305,000千円	274,422千円	△30,578千円

- 再雇用職員や臨時および嘱託職員の適正配置を行い、賃金総額の削減に努め、計画を上回る120,216千円の削減を行いました。
- 物件費は、委託料、需用費など削減努力を行なったものの、実績額は44,829千円となりました。
- 病院事業会計への繰出金の縮減およびコミュニティバス運行事業補助金、社会福祉協議会補助金、ごみ関連補助制度の見直しを実施することにより、109,377千円の削減を行いました。

将来の橋本市を見据えて

平成30年度は、全体で673,000千円の目標に対し、1,039,876千円の実績となり、計画の実行による効果があらわれました。今後は経常経費の総額抑制に努めると同時に、使用料の見直しなど新たな歳入確保の取組みを一層推進することにより、基金と市債に依存した財政運営から早期に脱却できるように引き続き努めていきます。



財政指標

財政状況が良好であることを示す指標として財政健全化判断比率（右表）があります。この比率は4つの指標からなり、いずれも危険信号とはなっていませんが、下記の財政力指数や経常収支比率では、和歌山県内の他市と比べて市税など自力で得る収入が少なく、お金の使い道の自由度が低くなっています。

財政力指数 0.467
標準的な行政サービスを行うためのお金を自ら賄える割合
(数値が高いほど財政に余裕がある)

県下9市中
6位
平均0.521

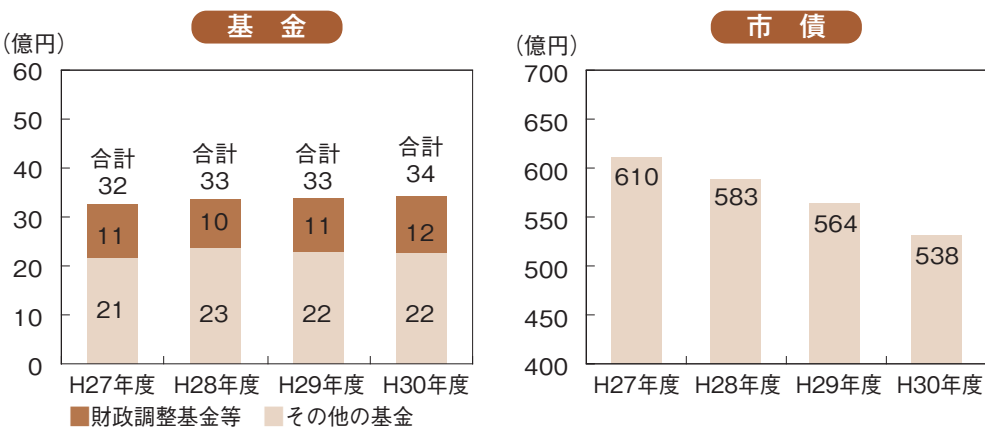
経常収支比率 100.4%
市税など経常的に入るお金が借金の返済など義務的な経費に充てられる割合
(数値が高いほど財政にゆとりがない)

県下9市中
7位
平均97.9%

財政健全化判断比率				危険信号
指 標	内 容	橋本市	早期健全化基準 ^(※)	
実質赤字比率	一般会計を中心とした赤字の割合	赤字なし	12.69%	
連結実質赤字比率	すべての会計の赤字の割合	赤字なし	17.69%	
実質公債費比率	年間の借金返済額の割合	13.3%	25%	
将来負担比率	将来に負担が見込まれる負債の割合	109.5%	350%	

※この基準を超えると、健全化計画を作成し、財政状況の立て直しに取り組む必要があります。

基金と市債



特定事業の実施や、財源不足のときに使う市の貯金（基金）は、前年度と比較して2億円増加し、34億円（うち財政調整基金12億円）となりました。

また、公営企業会計を含む市全体の借金（市債）残高は、前年度と比べて26億円減少し、538億円となりました。

公営企業会計の決算状況

民間企業のように、利用料金などの収益で運営する会計				
会計名		収入	支出	差し引き
水道	収益的収支	18.1億円	17.0億円	1.1億円
	資本的収支	1.8億円	7.0億円	△5.2億円
会計名		収入	支出	差し引き
病院	収益的収支	78.1億円	77.9億円	0.2億円
	資本的収支	4.1億円	7.1億円	△3.0億円

特別会計の決算状況

一般会計とは別に、独立して経理を行う会計				
会計名		収入	支出	差し引き
国民健康保険		73.3億円	70.9億円	2.4億円
住宅新築資金等貸付		0.3億円	0.2億円	0.1億円
公共下水道		17.8億円	17.6億円	0.2億円
駐 車 場		291万円	279万円	12万円
墓 園		0.3億円	0.2億円	0.1億円
会計名		収入	支出	差し引き
農業集落排水		1 億円	0.9億円	0.1億円
土地区画整理		1.5億円	1.5億円	0 円
介護 保 険		69.2億円	66.7億円	2.5億円
訪 問 看 護		0.6億円	0.5億円	0.1億円
後期高齢者医療		16.4億円	16.3億円	0.1億円